

F₁ パンジー フリズルシズル/フィジー・シリーズ

学名: *Viola x wittrockiana*

種子粒数の目安: 700 から 1,000 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しいプラグ用培地を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC は 0.75mmhos/cm(1:2)を維持する。初期に苗が徒長しないよう、培地中のリン酸レベルは極力低く抑える

播種

プラグトレイサイズ

288 穴あるいは同程度の容量サイズが適当

粗めのパーミキュライトでふつうに覆土する。水分を保持させながら最良の発芽結果を得るようにする

ステージ 1 - 発芽日数は 3、4 日

温度: 20 から 21°C

光条件: 発芽には光は不要

湿度: 子葉が発生するまでは相対湿度を 95 から 97%

ステージ 2

温度: 昼間 18 から 22°C 夜間 16°C

光条件: ステージ 2、3 では、26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: やや湿潤(level 4)から中庸(level 3)の間で維持する

肥料: リン酸の低い硝酸態の肥料をレート 1(100ppm (N)以下、EC:0.7 mS/cm)で与える

ステージ 3

温度: 昼間 20 から 21°C 夜間 16°C

水分: ステージ 3、4 では、標準あるいは中庸(level 3)を維持する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100 から 175ppm (N))に上げる。培地の pH は 5.5 から 5.8 を、EC は 0.7 から 1.0mS/cm(1:2)を維持する。pH が高すぎる(6.2 を超える)とホウ素欠乏を生じる。またチェルビオプシス(菌)によって、黒根腐病が発生しやすくなるので注意する

ステージ 4

温度: 昼間 16 から 18°C 夜間 13 から 16°C

光条件: 温度が適正であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可

肥料: ステージ 3 と同じ

PGR(矮化剤)

プラグ育苗の段階では、播種後約 3 週(最初の本葉が完全に展開した時点)で A レストを 10ppm 葉面に散布すると、苗の徒長抑制に効果がある

【北西ヨーロッパ仕様】

苗を見ながら、B ナイン 1,280ppm を 1、2 回葉面に散布する

※ プラグ苗の移植は時間をおかず、ストレスによって花芽がつかないよう、適切な時期に完了させる。こういった状態では仮に花芽がついても、株が十分にできておらず、バランスのよくない最終製品となってしまう

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

9、10.5cm の汎用ポット、またはカットパックなどが適当

用土(培地)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.6 から 5.8、初期養分は中庸とする

温度

昼間温度: 16 から 21°C

夜間温度: 10 から 13°C

照度

温度が適正な範囲内であればできるだけ高く維持する

肥料

移植後 1 週で、硝酸態を主体とした、リン酸が少なくカリウムの多い肥料を用いて、レート 3(175 から 225ppm(N)、(1.2 から 1.5mS/cm))の濃度で開始する。必要であれば、アンモニア態と硝酸態の肥料を交互に与え、株の生育を促し、培地の pH バランスをとる。培地の EC を 1.5 から 2.0mS/cm、また pH を 5.6 から 5.8、の適正域で維持する。とくに pH に注意し、6.2 を超えるような場合は、適切な対策を講じる

かん水

培地の水分状態を適度に維持し、極端な過湿や乾燥を避ける

PGR(矮化剤)

パンジーの矮化剤使用については、生産される場所や作型、また昼夜の温度などによって大きく異なる。

B ナインを 5,000ppm とサイコセルを 500 から 1,000ppm のタンクミックスによる、葉面散布の方法が多く用いられる。あるいは、B ナインを 5,000ppm と A レストを 5 から 10ppm のタンクミックスによる葉面散布も選択的である。移植後 1 週間おいてから散布を開始し、7 から 10 日あけて次の散布を行う(処理回数は 2、3 回)。矮化剤の濃度と頻度はあくまでも目安で、温度や作型によって異なる

【北西ヨーロッパ仕様】

B ナインとサイコセルのタンクミックスを用いることも可能。B ナインは 1,280ppm、そしてサイコセルは 750ppm でタンクミックスを構成。頻度は温度や作型によって異なる

※ 温度は、生長制御にあたって最も適している自然的要因である。春期の向けての作型であれば、低温条件が得られるので、矮化剤の利用は最小限か不要である

平均的な生産期間

生産期間は作型や生産方法によって異なる

播種から移植まで: 5 週

移植から開花まで(秋期): 4 から 6 週

移植から開花まで(春期): 6 から 8 週

播種から開花まで(春期): 18 から 20 週

病例等

害虫: 育苗期間中はガンガスやショーフライを、移植直後はアブラムシなどの監視を怠らない

病気: 立枯病や黒根腐病、斑点病、ボトリティスなどに注意する

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。